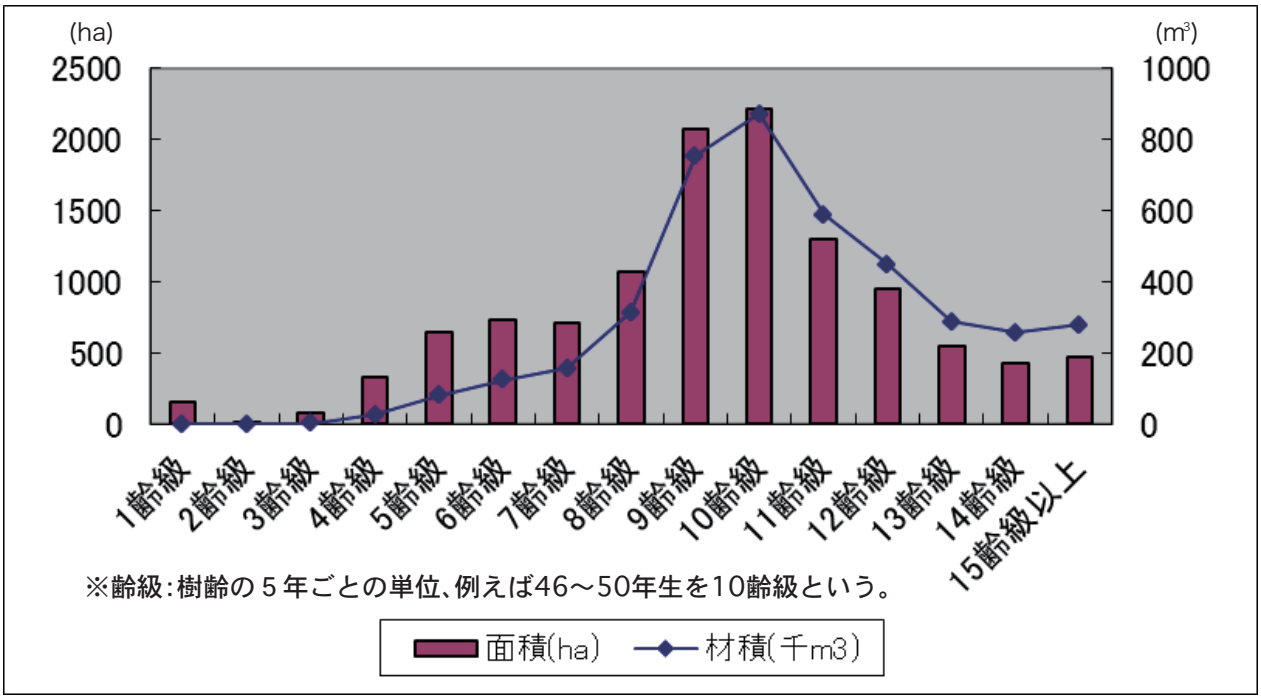
第２章　現状及び特徴・可能性

1 森林について

＜豊富な森林資源＞

姫路市は、平成 18 年 3 月 27 日に 1 市 4 町で合併したことにより山村部から都市部まで含まれることとなった。兵庫県が日本の縮図といわれるように姫路市は兵庫県の縮図である。市域面積 53 千 ha のうち森林面積が 31 千 ha と約 6 割を森林が占めている。その森林 31 千 ha のうち約 4 割（11.7 千 ha）がスギ・ヒノキ人工林であり、46 ～ 50 年生の森林の面積及び材積が最も多くなっており、切捨間伐だけは、ほぼ十分に実施してきている。

姫路市の人工林の齢級別面積



（平成 21 年 3 月県林務課調べ）

＜植生遷移の進行、生物多様性の低下＞

八丈岩山の山桜

姫路城周辺の桜は美しく、姫路城を取り囲む増位山、広峰山等のヤマザクラも市民を楽しませてくれていると同時に、姫路城の借景・背景として重要である。このヤマザクラは松くい虫の被害でアカマツ林が枯れ、その後自然に育ったものである。このアカマツ林を放置した結果出来上がったものであるが、このまま放置しておくと植生遷移が進み、ヤマザクラが衰退する可能性がある。加えてシカ食害により下層植生が貧弱になっており、生物多様性の低下と森林への侵入による竹林の拡大も懸念される。

＜雪彦峰山県立自然公園の存在＞

雪彦山（標高915m）を中心とする山地群で、日本三彦山の１つとして知られ、ロッククライミングの名所である。四季を通じ登山者にも親しまれており、また、兵庫県レッドデータブックにも記載されているアカヤシオやセッピコテンナンショウなどがみられ、自生地である森林の保全が重要である。

＜境界の分からない森林＞

本市の地籍調査事業は、安富町のみで実施しており、平成16年から21年度までの実施見込面積は約1,100ha で全体の3.5％しか実施できていない。森林所有者や現地の状況に詳しい者の高齢化が進んでいることから、境界に早く杭を打つことが必要である。

2 林業について

＜林道・作業道の整備の遅れ＞

山から木材を搬出するためには１高性能林業機械※5の利用、２林道・作業道の整備、３森林の団地化や集約化が推進されている。林野庁は、平成21年度から中核作業道、基幹作業道、作業路の３タイプに分けて事業を展開している。

本市の林道・作業道密度は、4.5m ／ ha であり、県下平均の6.1m ／ ha を下回っている。

＜利用されない間伐材＞

人工林について、全国的には管理が十分に行われていないが、姫路市は、平成14年から公的管理による間伐を年間で約500ha 実施し、着実に間伐を推進してきたが、その全部が森林内に置かれたままで利用されていない。

※間伐とは、込みすぎた森林を適正な密度に間引くことで下草が生え、土砂流出を防ぎ、健全な森林に導くためのものである。間伐した木を、森林内に置いておくことを切捨間伐といい、森林外に搬出して建築用材等に利用することを利用間伐又は搬出間伐という。

姫路市の人工林の間伐面積と生産量

区　　分	平成 21 年
切捨間伐面積	523ha
搬出間伐面積	0ha
素材生産量	6,121m^3

（平成22年県林務課調べ）

＜高性能林業機械の導入の遅れ＞

姫路市では、切捨間伐が中心であったため、作業道を開設するためのバックホー及び高性能林業機械（県下65台の内、姫路市は３台）の導入が進んでいない。

加えて林業機械のシステム及び技術革新は発展途上の段階にある。

3 担い手について

（1）川上の担い手（山に直接入って事業を行う担い手）

＜森林整備の中核的担い手は森林組合＞

個人・法人など森林所有者が互いに協力して林業の発展を目指す協同組合である森林組合は、本市の間伐など森林整備においては中核的担い手である。

＜その他＞

ア　素材生産業者　　：姫路市内３者
イ　姫路市　　：市有林　約350ha（うち人工林約250ha）
ウ　林家　　：姫路市内の専業林家は１林家
エ　ボランティア　　：10団体

（2）川中・川下の担い手（木材販売加工を行う担い手）

ア　木材市場

兵庫県には、山崎木材市場、和田山木材市場及び丹波林産振興センターがある。

イ　兵庫木材センター

兵庫木材センターは、平成22年11月に竣工し、毎年約10万㎥の丸太を板材等に加工する計画である。

（3）その他（企業の森）

姫路市内２企業

4 特徴的な森林林業施策への取組み

＜藤ノ木山、牧野自然公園等里山林の整備・保全＞

藤ノ木山、牧野自然公園など市域には９箇所の里山林を整備したが、管理については、遊歩道・管理歩道周辺の草刈りを実施しており、時期を見て遊歩道、ベンチ、あずまやの補修・改修及び森林の再整備が必要である。

＜緑の募金による里山林の維持管理＞

姫路市の家庭募金は自治会組織が確立していることから、兵庫県の家庭募金額の４割弱を占め、その一部が地域の里山林の整備や維持管理に役立てられており継続していくことが重要である。

5 特徴・可能性

＜特徴的な市域と可能性＞

姫路市は、平成18年３月の合併により、地勢的には北から森林、農地、平野、海及び島、これに沿って川も北から南へ海まで流れており、地域的には都市部から農山漁村部まで様々な地域を含むこととなった。

北部地域には森林が豊富にあるが、南部の平野部にも、八丈岩山（はちじょうがんざん）、蛤山（はまぐりやま）（袖振山（そでふりやま））、檀特山（だんとくさん）など独立丘陵があり、地域の人々は散策や眺望を楽しみ、憩いの場として親しんでいる。

川については、市川、夢前川、菅生川、林田川、大津茂川などがあり、市内に源流を持つ川もあり、

源流の森林を保全することが川の保全にもつながっていくと考えられる。

道路については、中国道を境に北では川に沿った南北交通のみで東西の道路は少ない。南では、南北、東西とも道路網が発達している。地域の交流及び北部地域の森林の活用・保全のためには、南北交通を横断する交流林道、集落間林道という視点は重要である。

このようなことから、市民全体で、地球温暖化の防止、環境の保全、土砂災害の防止、水資源及びエネルギー（バイオマス）の確保など市民生活の安全・安心を守るため、森林の現状を理解し森林の適正管理及び保全に努めなければならない。

区　　分	人　口	森林面積
旧姫路市	４８万人	９千 ha
旧家島町、夢前町、香寺町、安富町	５万人	２万１千 ha
合計	５３万人	３万 ha

＜多様な担い手の可能性＞

臨海部の企業は、豊かな水資源により阪神工業地帯として発達している。
近年、企業の CSR（社会的責任）活動を通じて環境貢献も増えつつある中、企業との協働により森林を保全することも重要であり、その方向性を検討する必要がある。
また、多種多様な価値観を持った市民に森林に対する関心や意識を持たせ、市民、企業、行政を連携・協働させることが重要である。

※５　高性能林業機械とは、従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械で、次のとおりです。

・フォワーダ（集材）
　玉切りした短幹材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械。

・プロセッサ（枝払い・玉切り）
　林道や土場などで、全木集材されてきた材の枝払い、測尺、玉切りを連続して行う自走式機械。

フォワーダ

プロセッサ

現状及び特徴・可能性（まとめ）

○森林について
・豊富な森林資源
・植生遷移の進行、生物多様性の低下
・境界の分からない森林

○林業について
・林道・作業道の整備の遅れ
・切捨間伐中心、素材生産及び間伐材の利用が低調
・高性能林業機械の導入の遅れ

○うち特徴的な取組み等
・雪彦峰山県立自然公園の存在
・藤ノ木山、牧野自然公園等里山林の整備・保全
・緑の募金による里山林の維持管理

○担い手について
・森林整備の中核的担い手は森林組合
・その他
　素材生産業者、生産森林組合、姫路市、財産区、林家。ボランティア
　木材市場、兵庫木材センター

＋

☆特徴・可能性

○特徴的な市域と可能性
・地勢的には森林、農地、平野、海及び島、地域的には都市部から農山漁村部まで様々な地域の存在
・平野部に憩いの場としての独立丘陵の存在：八丈岩山（はちじょうがんざん）、蛤山（はまぐりやま）（袖振山（そでふりやま））、檀特山（だんとくさん）
・川の源流の森林を保全＝川の保全
・中国道を境に北は南北交通のみ、南は東西南北の交通網の発達
・地域の交流及び北部地域森林の活用・保全のための交流林道、集落間林道の検討
・市民全体で森林を保全していく必要性の存在

○多様な担い手の可能性
・臨海部の企業の存在
・市民、企業、行政の連携・協働の重要性の認識